

【こうち型集落営農の取り組み、少子高齢化による労働不足、次のリーダーの育成】

E： 私の住んでいる上東地区は仁淀川の支流「上八川川」の現流域に沿って東西に約5 km、4つの集落からなっており、標高250mから450mにある中山間地域です。

まず私たちは日頃の取り組みの中で3つの柱を挙げています。1つ、上東を交流とふれあいの里にする。2つ、上東から文化を発信する。3つ、上東を農業で売り出す。

これまでの取り組みですが、地域活性化に向けての活動のきっかけは、平成9年3月に上東中学校が閉校となり、そのときから「吾北カタシの花祭り」をスタート、14回実施しています。高知県では樺の木のことをカタシといいます、これは日本一の大きさの樺の木です。県の天然記念物にも指定されています。幹周りは恐らく大人2人でも抱えられないぐらいの大きさです。これは上東地域のシンボルでもあります。

平成17年7月からグリーンツーリズム研究会のほうで農泊を開業しております。またパンの学校を毎月実施しております。パンの学校というと、食べるパンのほうをイメージするかもしれませんが、これはドラム缶でできた楽器、スチールパンのことです。このパンの学校では、演奏や製作を行っております。生徒さんは、地区内、また県内、県外では香川、愛媛、兵庫、大阪とかから参加しております。平均して1回15、6人ぐらい、多いときには40人ぐらいおります。

平成17年から酒米「銀の夢」を栽培しはじめ、土佐宇宙酒としても売り出されました。スタート時は50アールでしたが、平成22年度は125アールと面積が増えています。平成23年度は145アールを予定しており、スタートからの3倍ぐらいの面積拡大となっております。平成20年はこうち型集落営農モデル事業に取り組み、平成21年2月に上東地区営農組合を設立しました。農作業の委託事業もあり、倉庫、農業用機械、ビニールハウス等が導入されましたので、これを機会に耕作放棄地なども解消していきたいと思っております。

それから都市住民との交流では、現在高知大学と平成18年から食をテーマに交流をしております。

課題となっているものは、少子高齢化による人口の減少、これはもう若い世代も少なくなってきた、上東地区で高齢化率が50パーセントを超しております。

それと有害鳥獣による被害で、今まで大半はイノシシのほうでしたが、一部ではシカ、またサルの方も出てき始めて、ちょっとお手上げの状態の地域もあるようです。

それと基盤整備率が低いために、農作業の効率が悪く上東地区で基盤整備率が11.7%です。そこに大型機械が入っても、水田が狭いなため、どうしても作業効率が悪くなっております。

今後の取り組みですが、第2、第3のリーダーを育てるということを目指しております。これは平成9年当時のメンバーが現在までいたっているということですので、やはり次のリーダーを育成しなくてはならないと思っております。

それから他の地区との連携。これは特にイベント等でお互い助け合っていこうというこ

とを目標としております。自然体験や田舎生活体験ができるような里、これは都市住民との交流の場の中でこういうものを築き上げていきたいなと思っております。

それから、少子高齢化による労働力不足に対して援農制度とか、棚田のオーナー制度とかを取り入れて行きたいと思っております。

知事： そうなんですか。カタシというのは日本一の椿なんですね。

E： 今まで日本一の大きさは、富山県にある氷見の椿が日本一と言われていましたが、幹周りではこちらが日本一の椿の木です。

知事： すごいですね。

こうち型集落営農の取り組みでは大変ご指導、ご協力いただいております、本当にありがとうございます。中山間地域の課題というと、人口の減少と少子高齢化の話、そして有害鳥獣の話だと思いますが、それに果敢に挑戦しておられると伺っているところです。

少子高齢化が進んで、高齢化率が50%ぐらいになってくるような集落であればこそ、まず第一に生業をしっかり持つていくことが非常に重要で、そういう点で、こうち型集落営農はいろんな形で現金収入が得られることができる、中山間地域でも高齢化が進んでいても得ることができるような、そういう集落作りを目指す取り組みです。いろんな作物を導入したり、さらには一次産業に関連した例えば観光であったりとか、加工であったり、民泊であったりと、そういうことを進めていかれることがまず重要なんだろうというのが1つです。もう一つは、人口が減少して高齢化が進んでいるからこそ、交流人口の拡大を制度的に仕組んでいく、例えば棚田のオーナー制度なども典型だと思うんですが、そういうことが非常に重要なんだろうと思います。さきほど産業振興計画についてご説明したとき、ものづくりの地産地消、ものづくりを強化するためにも地域地域で生業が成り立って行くような集落づくりをしていく、上東地区のような取り組みというのをもっともって県内各地域に拡大していきたいと思っているんです。

特に伺いたいなと思っていたのは、リーダーの方がだんだん高齢化していったときに、跡を継ぐ人が果たして育てられるかどうか。そう簡単な取り組みでないだけに、やっぱり第二、第三のリーダーというのをしっかり育てるような仕組みを持ってないと、長続きしないと言われることがよくありますが、ここらあたり何かアドバイスなどをいただければありがたいなと思いますが。

E： 今までは地域を元気にしようという思いだけで突っ走ってきたという感があります。それで、我々の子どもとかが会になかなか参加しにくいような状況にあります。やはり若い者同士が集まりやすいような場づくりとか、そういうものもこれから必要じゃないかなと思います。

それからやはり女性も参加してもらって、やはり男性とまた違った視点から上東地区の将来を見てもらいたいなというような考えもあります。

知事： なるほど、それから、他の地区と連携して参加人員を増やしていく中で、リーダー候補を広く募っていくという方向性などもあるんでしょうか？

E： 2年ぐらい前から起こしている活性化事業の津賀谷（つがのたに）地区の棚田の火祭りとかいうイベントのときには、多くの人手を要するため、地元だけではなかなか人が足りないので、我々上東地区のメンバーも手助けしています。将来的には上八川川流域、旧上八川村ということで1つにしてはどうかというような声も挙がっているようですので、何年先になるかわわかりませんが、そういう構想でいきたいなと思っております。

知事： こうち型集落営農は今16モデルありますが、これを何とか32集落ぐらいに広げているなところで実現していくことを一つの目標にしていますので、またいろいろご指導ください。